

CMAC 会議(2011 年 6 月)出席報告

公益社団法人 日本証券アナリスト協会
理事・教育第二企画部長
金子 誠一

6月22日にロンドンで開催された国際会計基準審議会(IASB)のCMAC会議*について概要を下記のとおり報告します。

*IASBと世界のアナリストとの会議。第1回会合は2003年秋。当協会は2004年2月の第2回会議から出席。会議は年3回、IFRS-AC会議の前後にロンドンで1日かけて行われる。日米欧のアナリスト10名前後、IASBの理事5名前後、スタッフ数名出席。当初はトゥイーディー議長(当時)の私的アドバイザー会議の色彩が強かったが、IASBの会員向けニュースレター(Insight, July, 2005)で紹介され、2007年6月の会議からは公開(傍聴可)となっており、公的な性格を強めている。設立以来、Analyst Representative Group(アナリスト代表者会議)と呼ばれていたが、2011年6月の定款作成と同時にCapital Markets Advisory Council(資本市場諮問審議会)と改称した。

記

1. 出席者

今回は、作成者とIASBの会議であるGlobal Prepares Forumと合同で行われた。

(GPF Members)

Malcolm Cheetham (Novartis)、Olivia Larmaraud (PSA Peugeot Citroen)、
Mark Smith (Tomkins)、Bob Laux(Microsoft)、Gregg Nelson(IBM)、
Bill Hicks (Tate & Lyle)、Bo Eriksson(Munksjö)、Sandra Melocik(Exxon Mobil)、
Russell Hodge(General Electric)、Kazuo Yuasa(Fujitsu)、Tetsujiro Ishiguro(Mitsui)、
Richard Ackland (Secretary, KPMG)

(CMAC Members)

Sarah Deans (Citigroup, 英)、Christian Dreyer(年金コンサル, スイス)、
Peter Elwin(JP Morgan, 英)、Jane Fuller (コンサル, 英)、Jed Wrigley(Fidelity, 英)、
Sue Harding(英)、Neri Bukspan (S&P, 米)、Dane Mott(JP Morgan, 米)、
Sei-Ichi Kaneko (SAAJ, 日)

(IASB)

次期理事 : Hans Hoogervorst、Ian Mackintosh (Post 2011のみ)

理事 : Stephen Cooper、Jan Engström、Pat Finnegan、Prabhakar Kalavacherla、
Patricia McConnell

Staff : Alan Teixeira、Peter Clark 他

2. 要旨

今回の会議は、ディスクロージャーと 2011 年後のアジェンダという 2 つの幅広いテーマについて、3 つの小グループに分かれて約 1 時間議論した後、結果を持ち寄って全体会議で検討するという形式で行われた。ディスクロージャーでは、多くの情報を得たい CMAC の見解と、コストベネフィットを論拠に情報提供を絞りたい GPF の見解が分かれた。2011 年後のアジェンダでは、個別の基準の改善度を議論したがプライオリティについてのコンセンサスを形成するにはいたらなかった。

3. 議事一覧

番号	日時	議事
(1)	23 日 12:30-13:15	IASB の作業計画
(2)	同 13:15-15:20	ディスクロージャー
(3)	同 15:20-17:40	2011 年後のアジェンダ

*会議資料および録音は以下から入手できる。

<http://www.ifrs.org/Meetings/ARG+GPF+meeting+June+2011.htm>

4. 議事概要

上記の番号に従い、議事概要を報告する。

(1) IASB 作業計画

IASB スタッフから作業計画の説明。

(2) ディスクロージャー

IFRS については、個々の基準がディスクロージャーの充実を図った結果、全体としては過大なディスクロージャーになっているという批判がある。ここから、ディスクロージャー・フレームワークと称して、開示の原理原則を開発することが課題になっている。今回の会議では、このようなアプローチとは別にリース、収益認識、その他に分けて、現行基準、あるいは提案されている基準におけるディスクロージャーのコスト・ベネフィットについて議論した。

リースについては、リース資産負債の期始期末調整表(roll forward reconciliation)が議論を呼び、作成者が負債サイドのみで十分ではないかと主張したのに対し、ユーザーは自分で正確に調整するのは不可能なので資産サイドも必要と譲らなかった。これに関連し、ある作成者が事業で車両を用いる場合、それは単なる車両であって、自己所有であるか、ファイナンスあるいはオペレーティング・リースであるかは関係ない、と述べた。ユーザーからは分析上、所有形態の相違は重要との反論があった。

収益認識については、売上はネットで計上せず、グロス売上と貸倒引当金を別掲することは作成者、ユーザーともに支持。また、貸倒引当金の内訳表示については、明確化が必要という点で一致。ある作成者は、貸倒や減損で P/L の勘定科目が増えすぎると読みにく

くなるのではないかと指摘。別の作成者は注記で将来情報が求められる傾向があるが、監査を考えると、これらは MD&A(経営者による見通し)セクションで一体的に扱うのが良いという意見を述べた。ユーザーからは長期契約の繰延処理について疑問を呈する声があった。

その他の基準を議論したグループは現行基準でディスクロージャーの軽減が可能な 3 点を提案するよう求められたが、コンセンサスにはいたらなかった。ある作成者が、議論をしていて、これからの財務報告は過去の記録を発表するのではなく、今後 5 年間のキャッシュフロー予測を発表すべきと思ったと述べて笑いを誘った。

(3) 2011 年後のアジェンダ

①持分法、②法人税、③退職給付、④減損(非金融資産)、⑤中間報告、⑥無形資産、の 6 点につき、3 グループが各 2 点を 2011 年後のアジェンダに取り上げるべきか否かを検討して全体会議で報告。直前に行われた、IFRS-AC 会議ではアジェンダ問題をトップダウン方式で検討したが、当会議では現行基準をベースにボトムアップによる意見が求められた。なお、第 2 グループは石黒氏がレポーターとなり、検討内容を要領よく取りまとめて報告した。

6 点の現行基準にはそれぞれ問題があるものの、優先的にアジェンダに取り上げるべきプロジェクトのコンセンサスは得られなかった。法人税については、繰延税金資産・負債とキャッシュフローの関係が不明瞭だという意見が多く、退職給付についても年金負債のキャッシュフローへの影響を明確にすべという意見があるなど、キャッシュフロー重視のコメントが目立った。検討点には含まれてない財務諸表の表示と概念フレームワークを優先的に取り組むべきだとの意見もあった。

IASB のクーパー理事から、コンバージェンスについてどう考えるかという質問あり。コンバージェンスを優先するのではなく、是々非々で判断すべきというのがコンセンサスだった。作成者の中には、複数の基準が競争するほうが良いと、一部の会計学者と同じ意見を述べる人もいた。

報告者は次の意見を述べたが、これはどちらと言えれば少数意見：最終的な目的は世界がひとつの基準を持つということ。ひとつの基準であれば、悪い基準でもいい。皆が同じように被害を受けるので相対的には問題はない。また、本当に悪い基準なら、皆で力を合わせて改善する。ここから、世界でひとつの基準が本当に悪い基準になることは、ありえない。日本やアメリカが採用方針決定から適用まで、5~7 年と気の長い話を持ち出したが、会計の世界では 5~7 年は短期。それまでの間、コンバージェンスは重要な課題になる。

以 上